

7月2日（木） ワンデー課題

「うちとそと」

課題趣旨：

固有な風土に適った住まい方がある。

それは、自然がもたらす環境の下で、育まれた歴史と継承された文化の顕れでもある。

和辻哲郎は著書『風土』において日本固有の表現としての「うち」・「そと」の用例を挙げる。

私達は日常的に「家」を「うち」と捉える。

家人を「うちの者」、妻を「家内」と呼び、外の者とを区別するが家族の区別はしない。

この人間の間柄としての家の構造は、そのまま家屋としての家の構造にも反映するとある。

西欧における室は頑丈な錠前と重厚な壁によって閉じられ個々を距てる。

日本における襖・障子は、信頼において相互を仕切るものの、距てる意志はない。

さらに、日本の玄関・門は外部（「そと」）と家を対抗的・防御的に距てる。

それは西欧での街を囲む城壁の門に相当するという。

日本では、核家族化が進み個人主義が蔓延した。

自然や社会とのバランスは崩れ、以前からの住まい方が変化している。

殺伐とした事件や退廃的な気風が渦巻き、共有していた価値観は断片化し、道徳的な意識が薄れてきている。

和辻は「距てなさ」が日本の特殊性であり、「家」としての人間の存在の仕方であると説いた。

だが現在、家族の存在が変わり、「家」の意味が消失しつつある。

多くの人々が自分の居場所を見つけられずにいる。

建築は、何ができるだろう？

現状を踏まえ、未来を見据えた「うち」と「そと」を「住まい」として提案して欲しい。

以下の条件で建築を設計し、いかなるプレゼンテーションでも構いませんから、自分が提案するうちとそとについて、思う存分、よさが伝わるA2パネルを完成させましょう。

敷地条件：

敷地は、どこでも可とします。敷地の環境について分かるように表現してください。

建築条件：

延床面積は問いません。複数階も可。

建築物のみでなく、建築物の周りの外構計画も、あわせて提案し、設計すること。

必要図面：

建築内外の空間との関係を示すグラフィック、配置図（平面図を兼ねても可）、平面図、立面図、外観パース、内観パース、断面パース、ダイアグラム、コンセプト文（約200字）などなどから必要なものを超かっこよく表現すること。図面を豊かにするための多用な表現を推奨する。縮尺は自由。パースの代わりに模型写真を使っても可。

設計時間：

7月2日（木）11時00分～19時00分

提出物：

1人1枚で、A2用紙1枚に描き上げる。縦横は自由。

提出〆切：

7月2日（木）19時00分厳守

提出先：

北川啓介研究室の幸田峻太郎さんか鈴木康紘さんへ提出してください

講評会：

7月6日（月）13時00分～14時30分、14時40分～16時10分

A1教室で、全員のパネルを机の上に一枚ずつ置き、全員で全員のパネルを見ながら、いくつかを選定し講評する形式にします。コンペにたとえると、参加者側の立場だけでなく、審査員側の立場にも立ってみることで、第三者にどういったパネルが他のものに比べて提案したいことが伝わっていて、どういったパネルがわかりにくく伝わりにくいのかを、身をもって経験する形式にします。

質問について：

いつでも学内で声をかけてください。

メールでもどうぞ。kitagawa@kitalab.jp（北川啓介）です。

電話もどうぞ。080-4224-4221（北川啓介）です。留守時はコメントを残してください。